

空港環境整備協会の助成で救急車を購入

一般財団法人空港環境整備協会の助成を受け、1月30日（水）、国東市消防署本署に、新しく最新鋭の高規格救急自動車が配備されました。

高規格救急自動車には、除細動器や自動心臓マッサージ器など、救急救命士による高度な救命処置ができる資機材が装備されており、救命率や社会復帰率の向上が期待されています。

この日、同署で行われた運用開始式には、同協会の川野貞知大分事務所長をはじめ、市議会や消防関係者など約20人が出席。川野所長、三河明史市長、清國仁士市議会議員、木田憲治市議会総務委員長、小田宏規消防長がテープカットを行い、運用を開始しました。

なお、市内の救急自動車の配備状況は、国見出張所に1台、消防署本署に1台（高規格）、南分署に2台（1台が高規格）となっています。



（左から）清國議長、川野所長、三河市長、木田総務委員長、小田消防長

救急体制の充実のために

牛嶋内科胃腸科クリニックから寄贈

牛嶋内科胃腸科クリニック（武蔵町古市）の牛嶋紉二郎院長から、クリニック開院15周年にあたり、国東市消防本部へ200万円、武蔵中学校へAED（自動体外式除細動器）、武蔵保健福祉センターにはAEDスタンド式ボックスを寄贈いただきました。

これは、牛嶋院長が広域病院への勤務時から通算して30年間にわたり救急医療に関わってきており、市の救命救急体制の一層の充実のために役立ててほしいというものです。

2月4日（月）、武蔵中学校（花木和義校長・151人）で行われた贈呈式では、牛嶋院長から生徒会長の河野翔輝さんへAEDが手渡されました。続いて、「①にコール（救急車）、②にプッシュ（心臓マッサージ）、③にAED（の使用）」という使用する際のキーワードや命の大切さについての話がありました。同校では、既存の1台は職員室に設置しており、野球や剣道などの職員室から距離のある場所で行う部活動での緊急事態に備えて、グラウンド横の柔剣道場内に設置しました。

また、武蔵保健福祉センターでは、平成18年に牛嶋院長からAED本体を寄贈いただいており、今回いただいたボックスに入れて、玄関ロビーに設置しました。



2月13日（水）消防本部で（左から）牛嶋院長、小田宏規消防長

地域を守る防災士が誕生

1月26日（土）・27日（日）の2日間、アストくにさきで国東市防災士養成研修が行われ、市内各地域の代表者や学校関係者、福祉施設、市職員など113人が受講しました。

この研修は、今後30年間の発生確率が70から80%と言われている南海トラフの巨大地震や、台風などのさまざまな災害に備えて、災害に対する知識と技能を有し、地域や職場の自主防災組織で活動できる人材を育てようと、大分県と市が共同で取り組んでいるものです。

研修では、気象や地震、津波のしくみ、火災・水害対策、土砂災害対策について学習しました。また、グループに分かれて行われた図上訓練では、地震により津波が発生したという想定で、道路や建物の危険箇所の予測、避難路の選定、要援護者の所在などについて話し合いました。

研修終了後には、（特）日本防災士機構による防災士資格試験が行われました。今回、試験に合格して誕生した防災士の皆さんには、地域や職場での防災学習会や訓練など防災対策全般にわたり活躍していただく予定です。

